

衛生委員会・安全対策協議会合同会議(5月開催)の資料より

① 剪定作業で特にチェーンソーによる事故が多発防止対策

※事故撲滅推進会議での会員からのコメント抜粋

- ◇ 作業をする前に現場をどう運営していくのか、事前の現場確認が必ず必要。
- ◇ 玉切りはチェーンソーを使用するが、つるや小さな枝はノコギリを使用すべき。
チェーンソーは便利だが、怖い機械である。
- ◇ センターによっては、梯子の上でのチェーンソーの使用は禁止されている。
- ◇ 過去の死亡事故を受け、ヘルメットや安全帯の着用を徹底している。
着用していないと、仕事をさせないと徹底している。
- ◇ 事故が起きるのは、慣れから起きることが多いため、必ず声を掛け合いながら作業する必要がある。
- ◇ 小型チェーンソーを右手で持ち、左手を切る事故が多い。
防振手袋の保護具が必要。



② 事故の原因 ※事件事例からの検討

※事故撲滅推進会議での会員からのコメント抜粋

- ◇ チェーンソーを使用する際、左手で小枝を持つのはNG。
(チェーンソーは両手で持つこと)
- ◇ チェーンソーのキックバックの知識のない会員は作業してはダメ。
- ◇ 各センターの事務局が依頼を受けたら、事前に現場を確認して、
シルバーで受けられる仕事かどうか判断しないとイケない。
- ◇ 大規模な仕事はプロの仕事で業者の仕事であり、
シルバーの仕事ではない。



③ **刈払機を使用する際の注意点** ※(独)国民生活センター別添資料参照

- ◇ ヘルメット、保護メガネや防振手袋など、保護具を必ず装着し、事前に機器の点検を行ってから作業をしましょう。
- ◇ 作業をする前に小石や枝、硬い異物などを除去し、**15m以内に**人がいないか確認して作業をしましょう。
- ◇ 障害物や地面などにぶつかって起きる刈刃の跳ね(キックバック)に注意しましょう。
- ◇ 刈刃に詰まった草や異物を取り除く際は、必ず機器を止めてから行いましょう。
- ◇ 作業者の周囲の方は、作業者が安全対策をきちんと行っているか一緒に確認し、作業中も作業者に変わったことがないかを常に意識するようにしましょう。

④ 事故を防止するためのアドバイス

- ◇ 近くに人がいる場所や、自動車や家屋の近くで作業する場合は、十分な飛散防止対策を講じる必要がある。
また、刈払機で作業中の人には 近づかないでください。



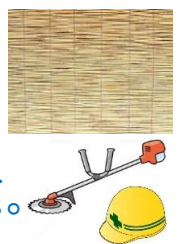
状 況	対 策
近くに人がいる場所	使用しない
自動車や家屋の近く	・作業する場所の小石や枝、硬い遺物などを事前に除去 ・飛散を防止するネットを使用
作業をしている人に近づかない	近づく必要がある場合は必ず保護メガネを着用

- ◇ 飛散防止カバーを確実に取り付けるとともに、必ず保護具を装着する。
必ずヘルメット、保護メガネ、防振手袋などの保護具を装着して作業する。

⑤ **除草作業で特に飛び石による事故が多発 防止対策**

※事故撲滅推進会議での会員からのコメント抜粋

- ◇ ヘルメット・ネット・メガネは必ず着用。
着用していなければ仕事をさせないと言われている。
- ◇ 飛び石対策は委員会等で安全にすることを徹底的に取り組んだ。
毛布やネット、ビニールシートを各自携帯している。
自動車のそばで作業する場合は必ず毛布を掛けている。



- ◇ 移動式ネットをセンターが何台か購入し、
その後会員が手作りして使用している。
移動式ネットを持つための人員を増やして作業している。
- ◇ 場所によっては車の通行の少ない時間帯(朝6時～)から作業を始める。
- ◇ 草は5センチ残すこととしている。
- ◇ 『長く刈りましょう』が合言葉。
2～3メートルのネットを両端2人で持って作業する。

<重要なお知らせ>

保険会社の審査が厳しくなり、**会員同士の飛石事故(賠償)**は、
今後保険は使えませんが注意してください。

上記にも案内したように、**いらなくなった毛布を掛ける**のも
よい案だと思います。よろしくお願いします。

初めての就業場所は、なるべく会員さんと一緒に現場を
確認したいのですが、時間がなく出来ない場合は、
会員さんの今までの経験と技能面で判断をお願いします。
時間がある時に現場を確認したいと思います。
危険が伴う現場は断ってください。
事務局から断わりを入れてもいいです。

ご協力をお願い致します

